

桶川市新庁舎

建設基本設計（案）

パブリックコメント資料

- 1 新庁舎設計の考え方
- 2 配置計画
- 3 平面計画（1・2階）
- 4 平面計画（3・4・5階）
- 5 断面計画・構造計画
- 6 設備計画

平成27年4月6日

桶川市



新庁舎設計の考え方

- 1. 立地特性・周辺環境等に配慮した庁舎
限られた敷地を有効に使った建物配置と、周辺住宅に配慮したボリューム構成で、ふれあい庁舎の「顔」をつくります。
- 2. 防災・災害復旧拠点としての役割を果たす庁舎
防災・災害復旧拠点として、災害発生時に安全で、災害直後も継続して使える庁舎をつくります。
- 3. 建設コストの縮減及び維持管理の容易性やランニングコストの低減に配慮した庁舎
建設・ランニングのバランスに配慮し、総合的なコスト削減を図ります。
- 4. 自然エネルギーの活用や省エネルギー化等による環境負荷の低減に配慮した庁舎
桶川の気候と敷地条件に即し、庁舎としての最適な環境技術と、市民の憩いの場となる快適な空間をつくります。
- 5. 市民が利用しやすく、時代の変化に柔軟に対応可能な庁舎
分かりやすい平面構成、迷わない空間構成と、入りやすい雰囲気、安全な設えを備えた使いやすい庁舎をつくります。
市民の交流の場をやさしく包み込み、市民がふれあう空間をつくります。



駅方面からのアプローチイメージ



計画地周辺

計画概要	
敷地の場所	：桶川市泉1-3-28（旧庁舎の位置）
敷地面積	：約4,180㎡
延べ面積	：約8,300㎡（駐車場除く）
主要構造	：鉄骨造/免震構造（1階柱頭免震）
階数	：地上5階 塔屋1階
駐車台数	：約60台
駐輪台数	：約200台
電気設備概要	
・受変電設備	：高圧6.6kV受電
・発電設備	：低圧ディーゼル発電機
・照明設備	：各種センサーによる制御
・防災設備	：非常放送設備、自動火災報知設備
・セキュリティ	：監視カメラ、カードリーダー、パッシブセンサー、 トイレ呼出設備
空調設備概要	
・熱源設備	：空冷ヒートポンプ、地中熱ヒートポンプ、 ヒートポンプマルチパッケージ（EHP・GHP）
・空調・換気設備	：外調機、全熱交換器、放射冷暖房、 EHP、GHP
・排煙設備	：自然排煙
給排水衛生設備概要	
・給水方式	：加圧給水方式
・排水方式	：分流方式による直接放流、 一部汚水貯留槽経由
・消火設備	：消火器、屋内消火栓設備、連結送水管、 他法定設備
環境配慮項目	
・電気設備	：太陽光発電設備、LED照明器具
・空調設備	：中間期の自然換気、 高効率熱源・空調機の導入、外気冷房、 CO2濃度による外気導入量制御、 高効率ファン・ポンプの導入とインバーター制御、 井水の空調利用、BEMSによる運用管理
・給排水衛生設備	：節水型器具の導入、 井水や雨水の雑用水利用

配置計画

わかりやすく入りやすい「川」の字配置

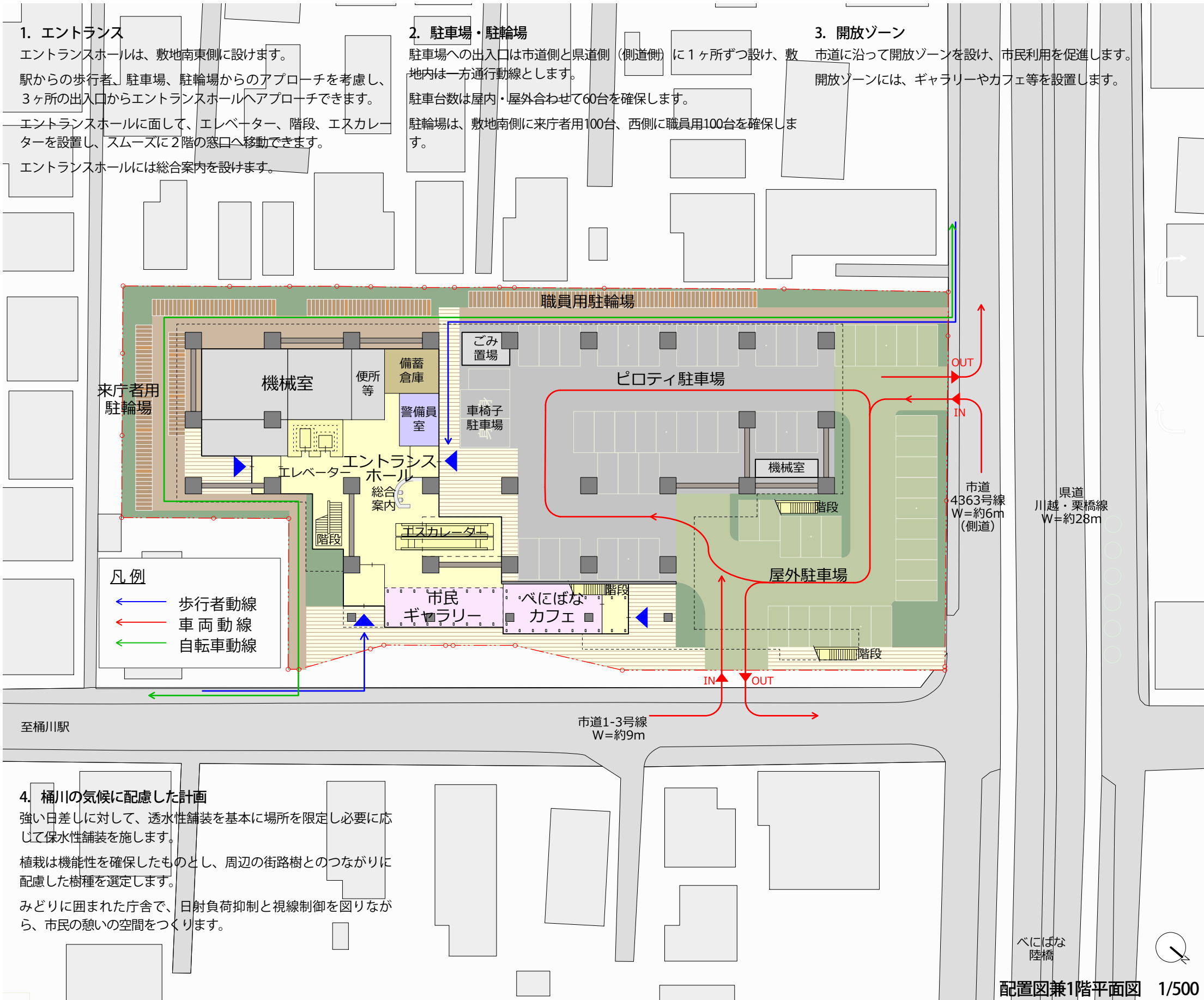
- 市道側を市民が利用できるスペース「開放ゾーン（1・2階）」、西側を窓口・執務室等の「庁舎ゾーン」とする「川」の字配置により、来庁者にとって分かりやすい建物配置とします。
- 開放ゾーンは、入りやすい雰囲気と交流が盛んになる場所をつくります。

「歩車分離」による安全な動線計画

- 敷地内で、駅からの歩行者、自転車の動線、自動車の動線が交差しない「歩車分離」とし、安全な動線計画とします。

使いやすさと有効利用を兼ね備えた「ピロティ駐車場」

- 平面で乗り入れることが可能な「ピロティ駐車場」とします。
- ピロティ駐車場とすることで、災害時の物資保管やイベント等、駐車場を多目的に活用することが可能です。



平面計画（1・2階）

来庁者を速やかに迷わず案内できる窓口

- 総合案内は1階に設け、訪れた来庁者を案内します。
- 1階から2階窓口へはエレベーター・階段の他にエスカレーターで速やかに移動できる計画とします。
- 2階窓口・待合は見通しがよく、迷うことのない空間とします。

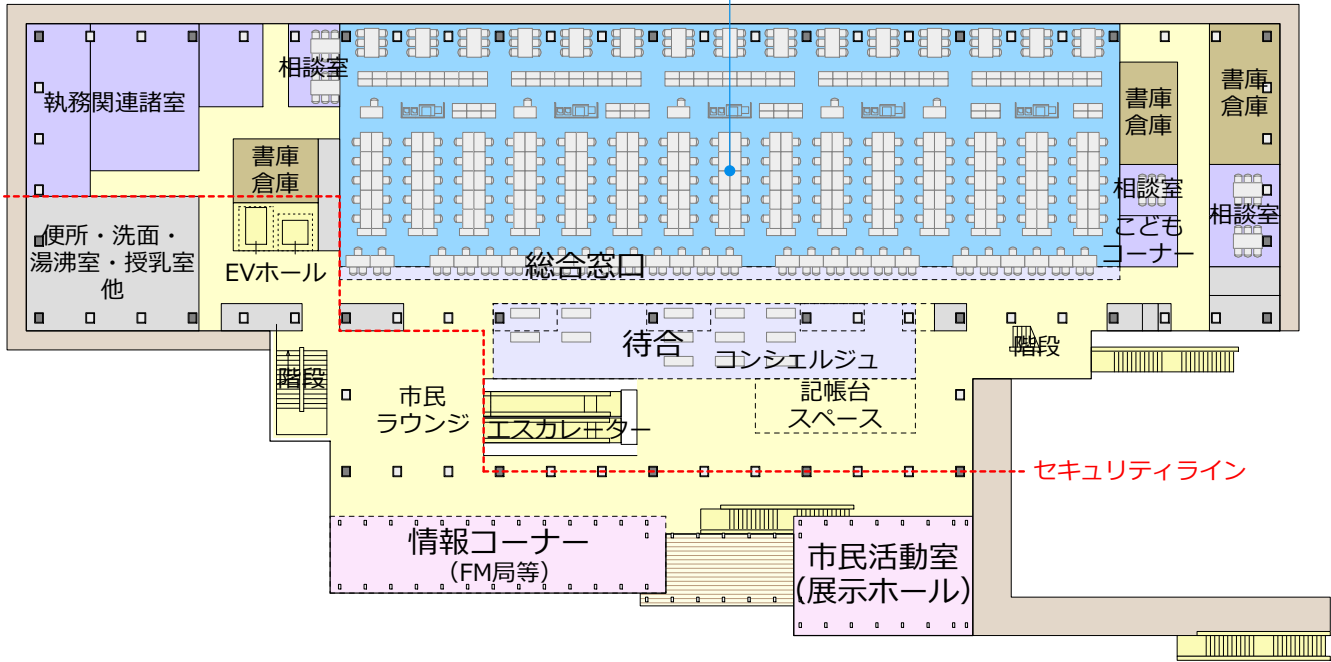
確実なセキュリティラインによる「開放ゾーン」の有効利用

- 開放ゾーンは市道に沿って1階に市民ギャラリー、カフェ、2階に情報コーナー、市民活動室等を設け、わかりやすく入りやすい雰囲気的空間とします。
- 「川の字配置」による明快なゾーニングにより確実なセキュリティラインを形成することで、開放ゾーンを時間外や休日を利用できる計画とします。

より使いやすく安全なユニバーサルデザイン

- 埼玉県福祉のまちづくり条例に適合させたうえで、安全なユニバーサルデザインとします。
- ユニバーサルデザイン（UD）は、カラーUDやサインUD等を取り入れます。

戸籍・税務・福祉関係の部署を配置予定



1. 窓口
窓口は総合窓口に対応可能なスペースを確保します。
2. 相談室
相談室は、プライバシーに配慮した位置に設置します。
3. ユニバーサルデザイン
車椅子便所は各階に設けます。

2階平面図



1階平面図

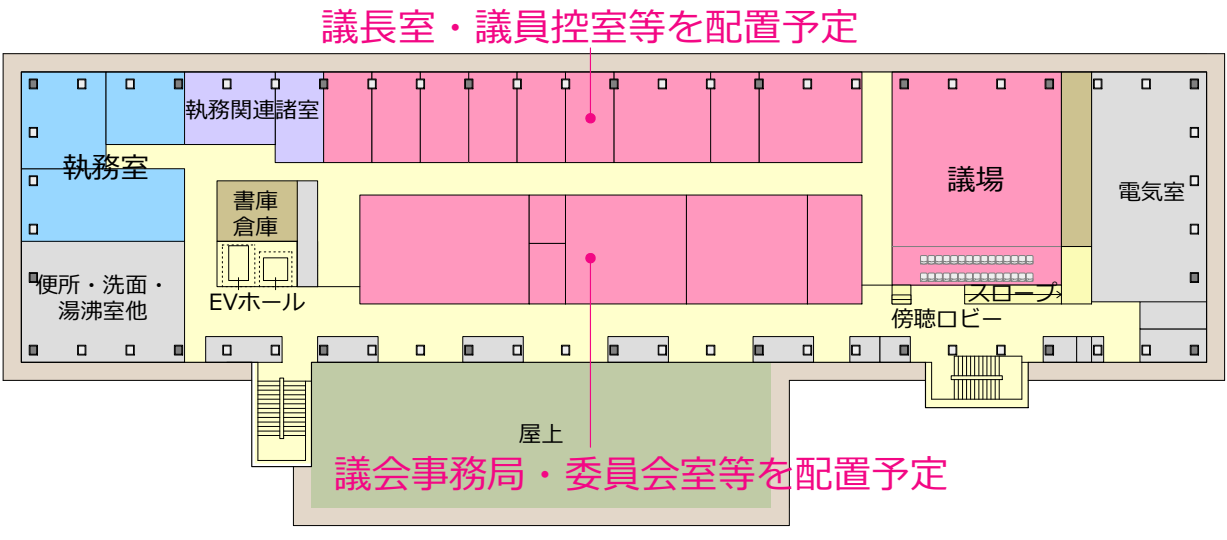
平面計画（3・4・5階）

シンプルでわかりやすい執務室

- 大部屋ゾーン（執務室等）と小部屋ゾーンを明確にゾーニングしたわかりやすい平面構成とします。
- まとまった片側執務室とすることで、フレキシブルな平面とするとともに、EVホールからの動線がシンプルで迷わない執務室とします。

活動拠点に兼ねることのできる各スペース

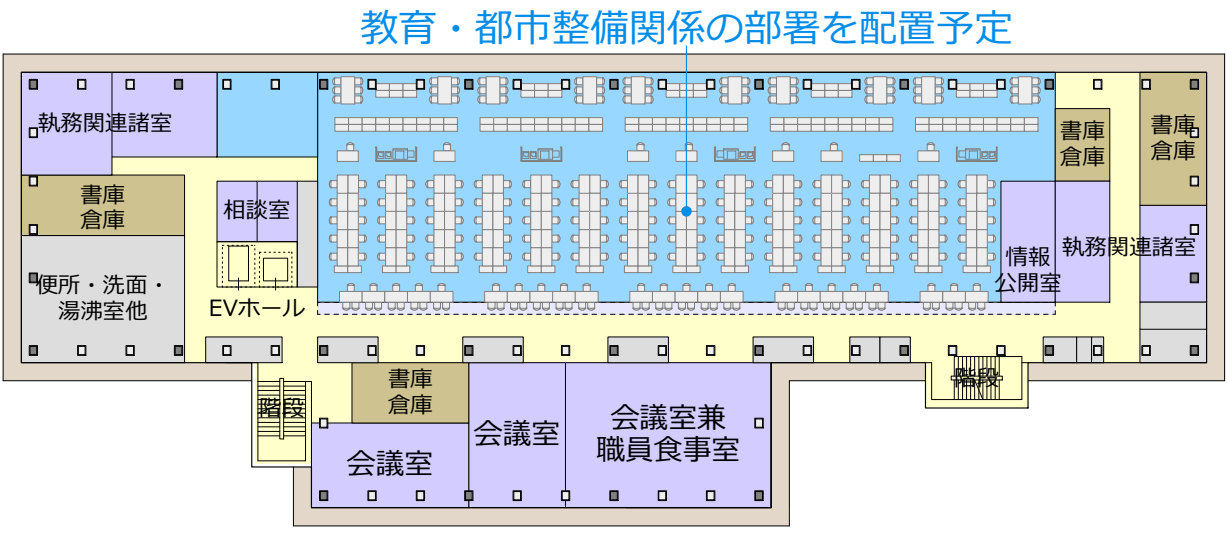
- 3階会議室は、災害時には災害対策本部として使用できる計画とします。



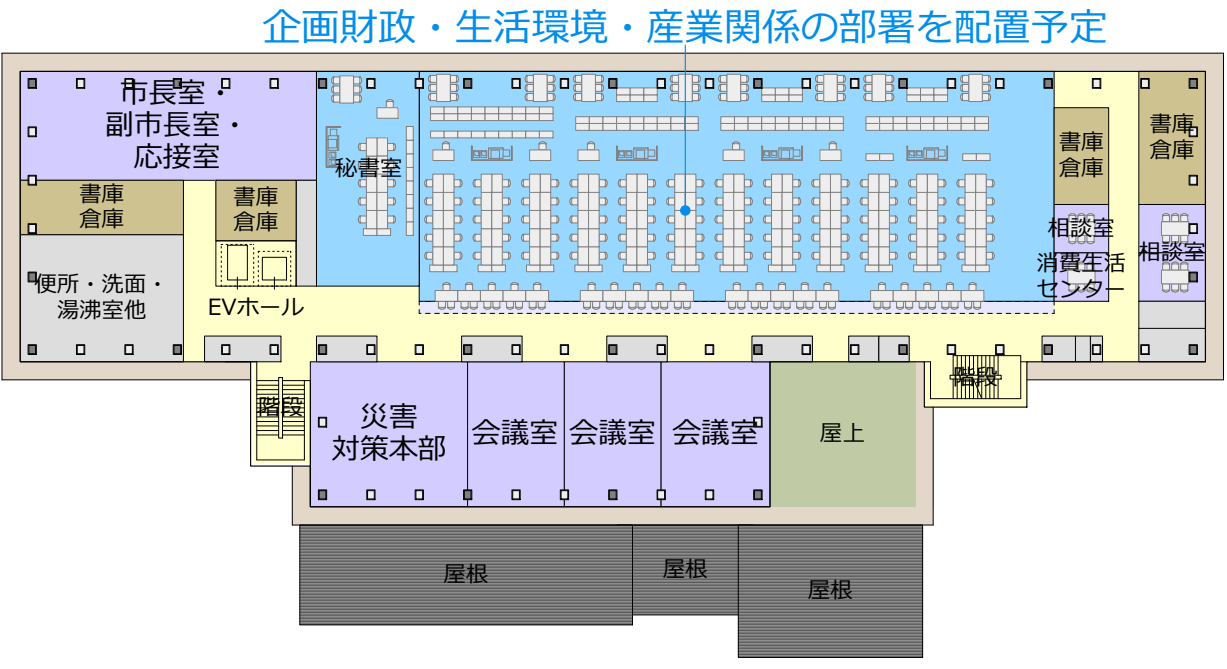
5階平面図

1. 議会

議会は、5階に集約配置します。傍聴ロビーは眺望に配慮して設けます。



4階平面図



3階平面図

2. 災害対策本部

災害対策本部となる会議室や市長室は3階に配置し、災害時の活動をスムーズに行える計画とします。

断面計画

周辺住宅に配慮した「セットバック型 5 階建て庁舎」

- 周辺が住宅地であることに配慮し、建物高さを抑えた5階建てとします。
- 市道側は2階建てとすることで、住宅が並ぶまちなみに高さを合わせるとともに、北側への日影の範囲を小さくします。
- 住宅が近接している南側と西側は、建物を敷地境界からできるだけ離し、さらに庇バルコニーや敷地境界沿いの植栽を設け、住宅との見合いを回避します。

直天井空間による低階高

- 執務室は直天井を採用し、階高を抑えることにより、鉄骨量・仕上り量を削減します。設備のメンテナンスや更新性の向上にも寄与します。

省メンテナンスデザイン

- 庇バルコニーや軒の深い屋根により、外壁が汚れにくいデザインとするとともに、窓の清掃を容易にします。

構造計画

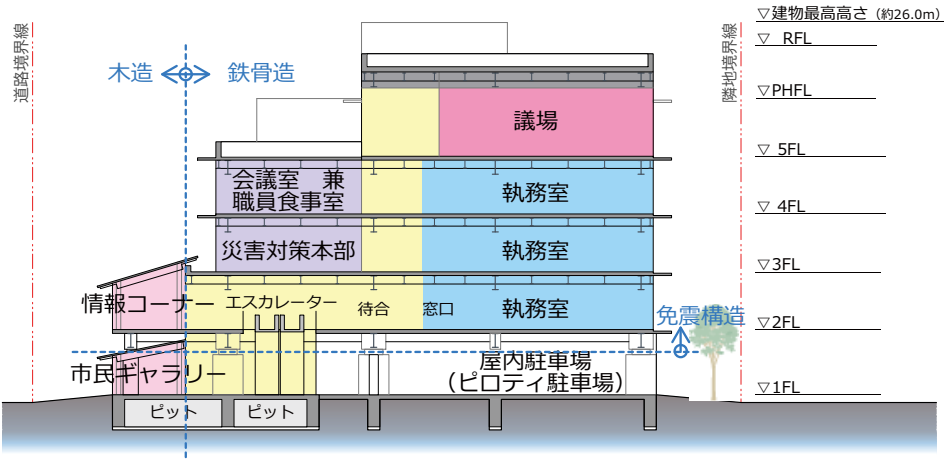
防災・災害復旧拠点として、災害発生時に安全で、災害直後も継続して使える計画とします。

構造形式

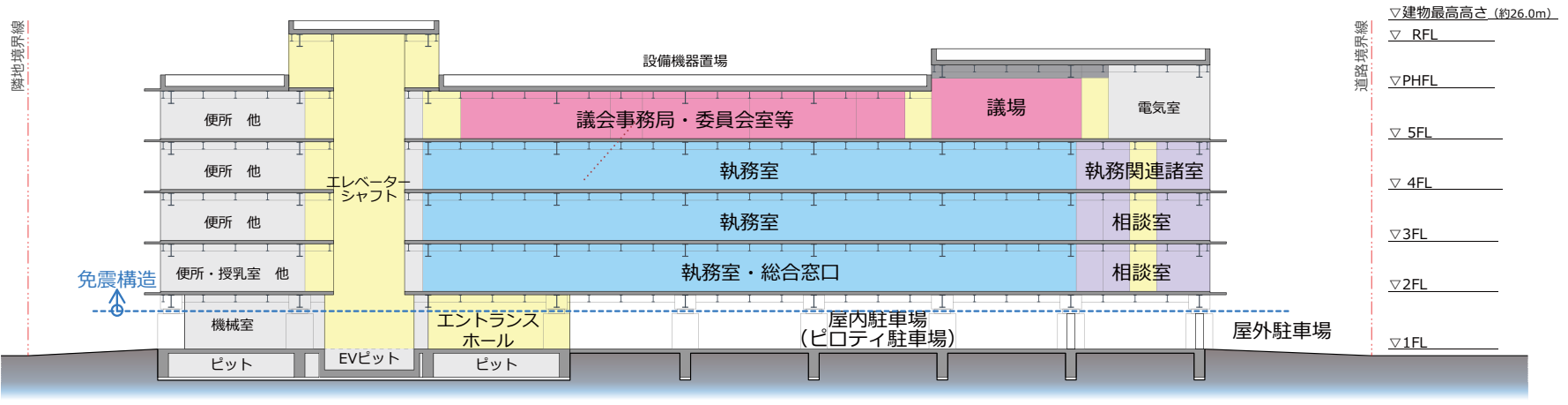
- 主要構造は、執務空間のフレキシビリティに考慮して鉄骨造とし、防災拠点としての耐震性能を確保します。
- 開放ゾーンは、木に囲まれたぬくもりのある空間と合わせて、木造について検討します。

地震発生時に迅速な災害活動を可能とする「免震構造」

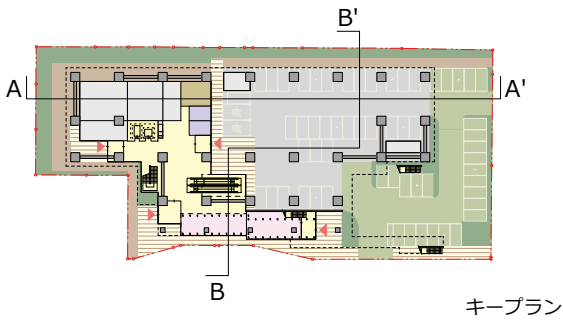
- 地震発生直後から速やかに災害活動と市役所業務を行える「免震構造（2階以上）」を採用します。



B-B' 断面図



A-A' 断面図



キープラン

設備計画

桶川の地域性に配慮し、環境負荷低減に努めながら、防災・災害復旧拠点として、市役所業務を継続して行える計画とします。

桶川の気候に配慮した計画

- ・長い日照時間を生かし、太陽光発電・明るさセンサーによる昼光利用を行います。

敷地条件に配慮した計画

- ・春期・秋期の南東風を利用した風の道をつくれます。
- ・高い地下水位を生かし、井戸水を利用します。

インフラ停止時に庁舎機能を継続するバックアップ体制

- ・停電時に備え、自家発電機（72時間分）の設置に加え、電源自立型（発電機能付）GHP（ガスエンジンヒートポンプ）、太陽光発電を活用し、災害活動を行う諸室への電力供給を行います。
- ・上水の遮断時に、雨水や井戸水をトイレの洗浄水等、雑用水に使用できる計画とします。

庁舎として環境に配慮した計画

- ・階段室をソーラーチムニーを利用して、自然換気を促進します。
- ・LEDや昼光センサー等、高効率な機器を設置します。

